

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和4年度 第5回佐渡市図書館協議会
開催日時	令和5年3月 30 日(木)10:00～
場所	佐渡市立中央図書館 2階講座室
議題	(1)報告 ①さわた図書館基本構想(案)の状況 (2)議題 ①令和5年度予定事業 a 第3次佐渡市子ども読書活動推進事業計画 b 図書館ビジョン実施計画後期(令和6年度～令和10年度) ②その他 (3)その他
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	佐渡市図書館協議会委員 会 長 木村 和夫 副会長 関根 良子 委 員 小松美知乃 海老名 忠 杉坂 芳文 遠藤 邦子 坂口 可奈子 渡邊 日出子 黒川 健(代理) 土屋 雅朗 事務局(教育委員会 社会教育課 中央図書館) 課 長 市橋 秀紀 館 長 村岡 直 係 長 伊藤 優美 主 事 本間 春菜
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	1名
備考	

会議の概要(発言の要旨)	
発言者	発言内容
木村会長	1 開会 挨拶
伊藤係長	資料確認
	(1)報告 ①さわた図書館基本構想(案)の状況
市橋課長	<p>おはようございます。社会教育課の市橋です。よろしくお願いいたします。本日はお忙しいところありがとうございます。私から、次第の報告①さわた図書館基本構想についての現状を説明させていただきます。1月31日に会があり、そこで意見をいただいた状況の中で、佐渡市の説明不足が多かったと私は感じておりますが、その中で、その後、子ども若者課が子育て世代の方たちと意見交換をしたと報告がありました。佐渡市の場合、2つの課が連携して事業を行う場合、今でいうと、社会教育課と子ども若者課が連携して事業を行う政策的な事業については、総合政策課が調整するというところで、図書館を佐和田に作るというところにつきましても、総合政策課のほうから話が来て動いている状況です。今、子ども若者課の部分でどういうふうにするか、そして全体的に市長が子育て拠点という話で、市長の思いを子ども若者課のほうから説明をいたしました。その部分の説明不足が多かったかなというところと、我々と子ども若者課の調整不足の中で 31 日の説明会を持ったところ、そのあと支援する団体から要望書等が出まして、それに対しどうするかたちがよいか調整している状況です。このあと総合政策課から総合調整という中で、佐渡市の考え方が総合政策課から出まして、我々のほうで図書館はこういうふうにしていきたい、子ども若者課はこうしていきたいという調整がこれから出てくる状況ですので、一旦図書館の関係は我々のほうはストップしています。前は子ども若者課の説明不足が多かったかなと感じまして、そこでどうするかというところで、子ども若者課と総合政策課と話し合い、また我々のほうに話が来るとお思いますので、4月に入り新しい組織で動き出すメンバーも変わりますので、その中で調整をして、少し遅れるかわかりませんが、しっかり話し合いをし、進めていきたい。一旦我々図書館サイドとしては、図面などはあのまま進めたい。ただ、2階3階をどうしていくか、特に3階は変えるつもりはありませんが、2階をどういうふうに作っていくかしっかり市役所内部で話し合っ進めていきたいと思っています。先週、図書館の職員研修も含めて、全図書館の職員が集まり、今の図書館構想の説明をし、職員からもいろいろ意見をいただき、内容の精査に使っていききたいと思っています。3月の議会で一般質問がいくつかありました。そ</p>

	<p>の中でも、市長、教育長の答弁の中でも市民の意見をしっかり聞いて進めていきたいと話しておりましたので、時間がかかってもそこはしっかり調整をし、進めていきたいと考えておりますので、何かあればまた皆様にしっかり説明をし、市民に説明していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上です。</p>
伊藤係長	<p>ただいまの事務局の説明につきまして、質問等ございますでしょうか。</p>
海老名委員	<p>前回の議事録でもありますが、我々の認識の中では、2階3階をさわた図書館という認識で今まで議論をしてきましたが、さわた図書館は3階という話が前回出てきて、非常に困惑しています。その考え方は変わらないということですか。</p>
市橋課長	<p>当初、我々は2階3階を、3階については大人が入れる静かな図書館、2階は親子で来れるようなイメージで考えていまして、説明の段階で2階3階の造りはすべて案の状況ですので、決定ということで説明したつもりはありませんが、31日の説明会でも子ども若者課長の動きが強く、決定のようなかたちで受け取られた感じがすごくありますが、12月に図面ができ、2階はおおむね親子や子どもが少し声を出してもよいような図書館というイメージ、そこに子育ての部分はどういうふうに来るか、私たちはそういうイメージしております。階を分けて3階につきましては、高校生などが学習するスペースをしっかり作り、閲覧するスペースを作り、書籍を置きたい。議場についてはホールを使ってイベントに使いたいということで、あくまでも提案です。決定事項ではないので、この会議でも決定という意味合いで言ったつもりはないので、勘違いさせてしまいましたら申し訳ございません。分けていきたいというところを提案ということで、31日の説明会を聞いて、意見交換をしてどうしていくかということでしたのですが、2階部分の分け方が子育て拠点という言葉がすごく強くなってしまい、図書館の部分が見えにくくなり、私もなるほどと思ったのが、子どものおもちゃなどがガチャガチャしたところに本があっても、果たして本をとるか、いろいろな課題が説明会でもご指摘いただきましたので、その部分も含め2階をどうするかしっかり考えていきたいと思っております。私の説明で勘違いさせている部分がありましたら申し訳ございません。今皆様から案を聞いている状況ということで、ご理解いただきますようお願いいたします。</p>
海老名委員	<p>それであれば、前回の議事録にもありますが、2階は子ども若者課で管理します、という書き方だったので、今回議事録にしっかり残して、改めて共通認識の上で今後進めていくべきだと思います。</p>
市橋課長	<p>私も31日に体調が悪く出られませんでした。31日の議事録を見たときに、子ども若者課長が管理は子ども若者課がしますというかたちでありましたが、31日のことについては全部案ということで、一応子育ての拠点という市の方針があったんものですから、2階については一旦子ども若者課が管理する、そして3階は社会教育課が管理するという、言い方はこういう方向で考えていますとか、意見が欲しいとかあればよかったと思いますが、そこをはっきり言いきってしまったので、前回そういう話をし</p>

	<p>ているのであれば、2階は子どもの声とする、3階はしないということで階を分けた考え方の中で、31日の時に子ども若者課では司書を置かないという話があったかと議事録で感じましたが、そこも決定ではないので、意見を聞きながら2階にどうい人をおくのか、はっきりと子ども若者課のイメージができていなかったのかなと思いますので、3階はもちろん図書館司書の方を置きたいと私は思っています。2階についても、本があるなら司書は置きたいと思っていますし、今佐和田の体制が2名なので、今度できる図書館も2名ということは決定ではないです。図書館の広さ、機能の部分でどうい人をおくかというところも考えていくというところで、私たちの内部の構成ができていない中で説明会を開いた部分があり、皆様を惑わせた部分があるというところは感じていますし、すべて決定ではないので、一旦出ささせていただいた案です。</p>
海老名委員	<p>そうすると、今後どういったスケジュールでさわた図書館の建設計画が確定していきますか。</p>
市橋課長	<p>総合政策課の中の総合調整というかたちで話が進んでいく中で、今子ども若者課がどういかたちを考るかというところを、市長との打合せがこれからするのかと思います。もうしているか確認はしていませんが、その中で我々も入り、どういかたちか話しを進めていきたいと思ひます。今スケジュールははっきり出せません。それと、議会でもありました、図書館の実設計書の予算が社会教育課で持っていたが、全体の中で庁舎管理のほうでしっかり見ていくことになると思ひますので、打合せをしていきたいと思ひます。</p>
海老名委員	<p>そうすると、この協議会の立ち位置というか、関与の仕方は、これを良しとするのか、反対意見があったり、協議会の審議する役割はどの程度ですか。</p>
市橋課長	<p>協議会の見解を出していただいてもよいですし、個々の意見があれば教えていただきたいと思ひます。我々は、図書館協議会がこうしたいというものがあれば総合調整でしっかり話していきたいと思ひます。</p>
木村会長	<p>私も実は佐渡市の組織がよくわかりませんでした。教育委員会というのは市長とは別に政治に対して中立という立場で分かれているのがわかりましたが、子ども若者相談センターという位置付けがわかりませんでした。図書館に来る用事があったときに、館長さんにお願ひし、佐渡市の組織図などがあつたら教えてほしいと、そうするとそこで位置づけがわかるとお願ひし資料をもらったことがあります。ただ、もう1つわからないのが、社会福祉部の中に子ども若者課や子ども若者相談センターがどのような業務をしているのか、まだ明確ではないですよね。たぶん、ここでやっている幼児向けの読書に関する活動みたいなことも当然その中であるのではないかと、重なる部分があるのではないかと、自分では想定しています。そのへんも社会福祉部の子ども若者課か、その中でも中心になっている子ども若者相談センターがどのような業務をされてい、どの程度この図書館との関わりがあるような仕事をされているのか、業務が重なり合う部分があるのか、そういったことがわかると、今後話し合う時に便利</p>

	になるのではないかと感じています。そうすると、今海老名委員が心配されていることが、少しでも話し合いがスムーズに進むと思います。
関根委員	前回県の広報誌をいただき、その紹介文の中に三条市の新しい図書館、複合施設ができたとありましたが、複合施設なので所管の課が違って来る、それに対しては建物が建つ前から関係機関の関係部署が念入りに打合せをしましたという文章がありました。その文章を見て、今のさわた図書館の関係と似ていると思い、今話を聞きましたら、今度総合政策課がまとめて調整をすると聞きましたので、そうすると、教育委員会、子ども若者課、総合政策課、3つの課が関係してくると思いますが、そこで、本当に綿密な調整をしていただきたいと思います。あくまでも、課が違うから利用する人に不都合があったり、使いにくいということがないようお願いしたいと思います。三条市の紹介文を読んで、つくづく感じたことなので、利用者が、課が違うだけで使いにくいということは絶対にないようにしていただきたいと思います。
伊藤係長	ありがとうございます。他にご意見や質問はございますか。
渡邊委員	課長の話聞いて納得いたしました。これから市民とのいろいろなことを調整しながらやっていくということであれば、私たちも関根委員が言った、利用者が使いやすいようにということを肝に銘じて進めていただきたいと思いますし、私たちの意見も少し入れていただきたいと思います。
伊藤係長	ありがとうございます。
黒川委員代理	代理ですがこの場でお話しさせてください。子ども若者相談センターがどんな運用で関わっているかという点で、私も育休で子ども若者相談センターを利用した側として、この場でお話しさせていただきます。子ども若者相談センターのほうでは、発達のサポートのいる親子が療育相談をしたり、そこでいろいろな活動を子どもたちとして、保育園・小学校に繋げていく役割も内容としてあるかと思います。もう1点、今ほど複合施設と出ましたが、以前に市長と親を対象とした話す場所がありまして、そこに参加させていただきました。その時にも話させていただきましたが、新潟市のほうの複合施設に絵本を読む畳のスペースがある程度あり、その中に受付があり、さらに奥のほうに遊ぶ場所があるので、佐渡でも確かに今は支援センターもありがたいことに使えますが、そこは小学生も混ざっていて、小さい子どもなかなか自由にできず、雨の日困るという声もありましたので、佐渡でも図書館のような場所ができるのかな、ありがたいな、と、今聞かせていただいたので、そういう声がお子さんを持っている家族、単身で来られている方もたくさんいるので、そういう意味では情報として何かの役に立てればと思います。
市橋課長	ありがとうございます。
市橋課長	今、会長から話があった、子ども若者課の業務について教えていただいて、もし新年度に入った時に子ども若者課から来ていただき、その内容説明をして、どうリンクするかなどを含めて、子ども若者課の思いがどこまでできているか確認はしております。

	<p>せんが、そういった中でまた話を聞いてみて、今日明日で図書館がどうだ、施設がどうだということには、今の状況にはなりえないと思いますので、そこはいろいろな意見を聞いて、もしでしたら次回課長さんに来ていただいて説明をしていただくかたちでも設定できますので、いかがでしょうか。</p>
伊藤係長	<p>今ほど課長から子ども若者課の職員をとという話がありましたが、いかがでしょうか。</p>
黒川委員代理	<p>市橋課長さんが最初におっしゃった中に、子ども若者課の課長さんとの考えのずれを感じたので、来ていただいて関係する方々の疑問など想像つかないと思うので、そういう場があるのはよいと思います。</p>
伊藤係長	<p>ありがとうございます。</p>
遠藤委員	<p>複合施設になる点の難しさがあると思うので、可能であれば、先ほど三条市の事例もありましたが、複合としてやっている図書館に、メリット・デメリットを聞ければ、県内や県外の事例を調べて、そこから学ぶことがあると思うので、そういうことも検討材料として資料を集めてから話をするのもよいかと思います。</p>
伊藤係長	<p>ありがとうございます。</p>
市橋課長	<p>他市の場合、複合施設が、いろいろなものが入って複合になっていると思いますが、ある程度部屋でここは何課の持ち物、ここは何課の管理だということところが、これから伊藤係長に調べていただき勉強したいと思いましたが、私たちの今の状況は、2階に本を置くだけ、そしてただ相談センターがあるだけというところで、そのへんの利用目的や機能も不十分なところもありますし、他市の状況からすると、たぶんある程度部屋で線引きをして、ここは図書館、ここは子ども若者課の部分というかたちが多いのかなと、今話を聞いていて思ったもので、そこは他市の状況を勉強させていただき、そこがわかりにくくなっている一つの原因かなと感じます。勉強させていただき、状況を皆さんに報告したいと思います。</p>
遠藤委員	<p>もう1点、その点で図書館と子ども若者課のすみ分け問題がどうなのかと思い図書館法を見てみましたが、本をどうしても図書館の中に置かなくてはいけない法的な決まりはたぶんないですね。利用のためにどこかに貸し出してもよい使い方をしてよいと思うので、確かに管理の問題では難しくなってしまいますが、責任問題がいい加減になってはいけません、この状況なので、佐渡市として法的なところも含めてベストな方向に行けるように考えていきたいと思います。利用者が使いやすいようにというのが一番で、ここは子ども若者課で、ここから図書館というところにこだわっていると、すごく使いづらいものになってはいけないので、法的な部分も含めて考えていただきたいと思います。</p>
伊藤係長	<p>ありがとうございます。</p>
杉坂委員	<p>今のお話を聞いて、図書館については調整をしてからということですが、やはり白紙撤回の要望など、佐渡市として今後どこまで基本になるところまでもどるのか。2階3階を図書館にするというのが最初ありましたが、その移転は基本的に譲らない方向</p>

	<p>で考えていくことも含めて調整をするということだと思います。それにしても、佐渡市としての基本的な考え方、基になる考え方を示してほしいと思います。そうでないと最初2階3階が図書館という話をしていただけで、これまでは話をしてきたことが無駄になってしまいます。佐渡市として、このような図書館を作りたいという基本的な考え方を示してもらえると話を進めやすいと思います。</p>
市橋課長	<p>ありがとうございます。あの図面については案であります。3階については一般の方が勉強できて、方向性は悪くないかと思っています。ただ、これから皆さんの意見を聞いて、1月31日にやったのが、1回だけの話で意見をいただいて、それを我々が練って、また説明して、調整を何回も繰り返していかないといけないと思っています。私たちは図書館側の人間なので、図書館としてどうあるべきか、そして先ほども言いましたが、2階が絵本がどう使えるのか、幼児書がどう使われるか、2階には児童書や子供に関わる本、子育ての本、そういうイメージの本を置くつもりでいますが、それがどう使われるか今明確ではないので、おもちゃと一緒に本もおもちゃにされるとそれは難しい。でもそこはよいという人もいます。いろんな人たちの意見があるので、そういった意見をしっかり聞いて、内部で説明していきたいと思っています。私たちも図書館としては本の冊数もしっかり置きたいですし、図書館司書もしっかり置きたい、その話はしっかりしていきたいと思っています。あとは調整の中で、市民の意見を聞く中でどうしていくかというところは考えていかなければいけないと思います。</p>
杉坂委員	<p>調整をしながらということなので、今後、そういう部分が出てくると話がしやすいのかなと思いますし、当然いろいろな人の意見を聞きながらになると工期がずれてきたりするので、工期の部分の見直しも必要かと思っています。</p>
市橋課長	<p>実際に私も工期が延びるかと思っています。ただ、その中で意見を聞いて反映できるかということはしっかり考えていきたいと思っていますし、ある程度市のほうで意見をまとめたものができて、市民説明する前に図書館協議会のほうに説明した中で市民説明を迎えたいと思います。その前に一旦こちらで意見をいただきたいと思っていますので、そこで図書館協議会の皆さんの情報や考え方もしっかり取り入れていきたいと思っています。ただ、私も、ゼロから新しい建物を造っていくのであれば、両津の図書館がそうだったのか当時いなかったのかわかりませんが、いろいろな意見を聞いて加茂湖が見えるところなどいろいろな意見を聞いて造ったと聞いています。ゼロからの部分と、今回はリフォーム的な考え方もあるので、その中で落としどころを考えながら、どうかたちが一番市民が使いやすいか考えていきたいと思っています。必ず皆さんに報告をして意見を聞きたいと思っています。時間がかかっても市民が使いやすい方法は考えていきたいと思っていますので、スケジュールは今言えませんが、また協力をお願いしたいと思います。</p>
村岡館長	<p>工期の部分ですが、3月議会の中で、教育長も市長も含め、意見を聞きながらということで、市長が同様の質問の中で、工期については考えておらず、市民のご意</p>

	見を聞きながら進めるということで市長も明言しておりますので、私共も市民のご意見を聞きながら、調整しながら進めていくことになると思います。
伊藤係長	他にご意見などはございますでしょうか。 続きまして、(2)議題に入りたいと思います。以降より木村会長に進行をお願いいたします。
	(2) 議題 ① 令和5年度予定事業 a 第3次佐渡市子ども読書活動推進事業計画 b 図書館ビジョン実施計画後期(令和6年度～令和10年度)
木村会長	第3次佐渡市子ども読書活動推進事業計画について、事務局より説明をお願いします。
村岡館長	(説明)
木村会長	今ほど、子ども読書活動をどういう具合に進めるべきかというところを、法律から国、新潟県、そして佐渡市の実態ということで、説明された。さらにその中で数値目標に関してはもう少し具体的に選定する時の数値がどの程度の実態があるのか、ということでお話がありました。
伊藤係長	本日お配りしました、A4枚の資料ですが、表記が誤っており、4つ表がありますが、一番下の表が『(4)』とすべきところを『(3)』と誤って記載してしまいました。申し訳ございません、この場で訂正をお願いできますでしょうか。
木村会長	わかりました。ということで、一連の流れを説明する中で、さらに第3次の推進計画へのつながりが少し見える。前のほうの文章でも文言を変えていかなければいけないが、推進計画がこのあと図書館ビジョンであります。基本的な流れとして同じですが、大事な目標の部分はしっかり押さえながら進めていくことが必要で、このような目標を基に全体が進んでいくとお話が進んでいくということです。またご意見等いただけたらと思います。また、先ほど触れられなかった前段の部分で少し修正すべきところがありましたら、それについてもお願いします。今回はあくまで第3次を作る。
村岡館長	実際に作り出すのは来年度に入ってからになりますので、細かい部分についてご指摘をいただいてもよいですし、進め方について現場の声を伺いたいというところで考えておりますので、現場の声をより反映させる部分でご意見などあればお願いいたします。
渡邊委員	第3次子ども読書活動推進事業計画というのは、令和6年からですか。令和5年からですか。
村岡館長	私共が考えているのは、来年度策定して令和6年度から取り掛かります。
渡邊委員	そうすると、図書館ビジョンと一緒にになりますか。互い違いではなく一緒ですね。そうすると、例えば、第2次子ども読書活動推進計画は1次の例えば図書館ビジョンの最初に、『佐渡に暮らす子どもたちの豊かな心を育む図書館』の具体的なものが第2



	<p>次には出ていません。なので、具体的にここまで決めてあるのならば、第3次子ども読書活動推進事業計画の中にもこういうものをきちんと入れてもよいのではないかと思います。書いてはありますが、具体的なものがないので、具体的なものを入れてもよいと思います。</p>
木村会長	<p>同じことを願いながら、子ども読書とそれよりもっと大きいわけです、佐渡市立図書館ビジョンは。なので、この中にある言葉が内側に反映するように、修正すべき点は修正して、ということですね。</p>
渡邊委員	<p>6年度からであれば、そのようにしてもよいかと思います。</p>
木村会長	<p>国からはこれを作れ、あれを作れと追われているから、多少遅れて今回一緒になってしまったのですね。</p>
渡邊委員	<p>具体的なものがあるとわかりやすいし、今後デジタル化が今までも散々言われていますが、コロナの影響で端末を子ども1人1台持たせるような時代なので、そういう部分も入れていかないといけないかと思います。</p>
村岡館長	<p>デジタル化の話で情報提供です。新潟県と県内の市町村が共同して、電子図書館の勉強会を開催しています。そういった中で、こういったタイムテーブルになるかわかりませんが、電子図書館ができましたら、子どもたちがタブレットを使い、電子図書館にアクセスし、本が読める環境も推進できると思いますので、そういったところも第3次に入れていくかこの後検討していくかと思っています。</p>
遠藤委員	<p>今電子図書館のお話がありましたが、私の子どもが5年生ですが、学校で端末を1人1台持っており、学習でもそこですぐ調べるような教育をいただいているので、非常に情報収集能力というのが格段に上がっていると感じていますが、その反面、本人が図書館に足を運ぶかという、割と手元でいろいろな情報が取れてしまうので、図書館に行き本を探すということは今の子はあまりしなくなっているかもしれない。そういう部分も含めて、もっと昔の感覚で計画を立てていると、世の中とのずれが出てくるかと思います。私は自宅で取っている教材で、タブレットでいろいろな本を読めるライブラリーを使える教材をやっています。そうすると子どもはそこで電子書籍を読んでいます。それは親とすると1冊とはカウントしていませんが、知らない間に本人は本を読んでいる。なので、そこも子どもが何を読んでいるかや、何を学んでいるかが見えにくくなっています。そこも含めて、少し難しくはありますが、現代に合わせた状況把握をして計画をしていかなければならないかと思っています。決してマイナスなことではなく、例えば図鑑は紙の図鑑を広げながらスマホでいろいろ調べてハイブリットで学んでいます。そこも考慮しながら計画を立てるとよいかと思っています。</p>
市橋課長	<p>先ほど渡邊委員からビジョンの関わりの中で話がありましたが、議題①のa、bで子ども読書活動推進計画のほうが先に来てビジョンが後に来ていますが、本来の作りこみとしては、全体のビジョンを先に作り、そのビジョンの中で、このビジョンがどういうものになるかまだ分かりませんが、佐渡に暮らす子どもたちのイメージがここに書い</p>

	<p>であり、子どもたちにこういうことを図書館はさせたいという方向性があるので、作る順番としては、同じ年度なので並行していかないと間に合わないかと思いますが、やはりビジョンのほうを先に作り、子どものところだけでも先に作り方向性を出して、第3次に受け継がせていくつながりを持たせた感じで作っていく必要があるかと思っておりますので、また内部で検討していきたいと思っております。佐渡市の総合計画が佐渡市の上位計画であります、図書館でいうと図書館ビジョンが第一、次にいろいろな計画があると思っておりますが、それに沿って子ども計画が下りてくるというかたちで、来年になるとタイトなスケジュールになると思っておりますが、協力していただきたいと思っております。</p>
木村会長	<p>おっしゃるとおりですが、順番が逆になっているものですから、関連のもとで終わらせていくしかないので、図書館ビジョンのほうに触れながら、こちら側の文言を伸ばしたらよいと思っております。そのようなかたちで意見がありましたらお願いいたします。</p>
関根委員	<p>どちらかというビジョンのほうだと思いますが、令和6年からだと、今、世界遺産の関係が非常に話題になっていますし、認定されるとすれば、それに対しての佐渡市の歴史や佐渡関連の図書に興味を持つような方は多くなるかなと推察していますが、それに関して、そういう項目や活動を入れて、新規の事業のようにして入れていただけるのか、あとは、先ほどもお話が出ましたが、デジタル社会は避けて通れない時代になっています。特に子どもたちは小学校の時からタブレットで検索などしていますし、私たちの年代との差はすごくあると思っております。なので、そのへんの実情に合わせたビジョンが大切かと思っております。そのへんを計画の中にどう反映していくのかお伺いしたいです。結果的には子どもたちの計画の中にもデジタル化は出てくると思っておりますので、今私両方を合わせたような話をしてしまいました。</p>
伊藤係長	<p>ご指摘いただいているように、図書館ビジョンの柱自体にも、1番目の項目で「佐渡に暮らす子どもたちの豊かな心を育む図書館」とありますし、他の項目についても子どもの読書と全く無関係かという、そういうことではないと思っております。なので、ビジョンの後期計画のほうも、令和6年度からの5年間の先を見越した計画を立てていきますし、それに合わせ、第3次子ども読書活動推進計画も見直し、新たになるか引続きとなるか来年度以降の話合いになると思っておりますが、目標値を設定していくことになると思っておりますので、ビジョンと子ども読書活動推進計画についても双方で支え合うようなものを作っていかなくてはいけないかなと考えております。その上で、関根委員のおっしゃるとおり、デジタル社会ということも今後変わっていく大きな部分だと思うので、GIGA スクールというところで、小学校・中学校1人1台タブレットが配布されている、高校生についても配布されていると聞いていますので、そこも踏まえつつビジョンの実施計画についても子ども読書活動推進計画についても、両方見据えたかたちで具体的に来年度以降練り直していきたいと考えています。そういったところも含めて、ご意見を図書館協議会でもいただければと考えています。</p> <p>ビジョンの説明ですが、改めてお伝えするようなかたちでもよろしいでしょうか。図</p>

	<p>書館ビジョンの実施計画の後期について説明させていただきます。今年度も皆様に評価していただきましたのが、前期の5年分の計画の評価をいただきましてありがとうございます。いつも作業が遅くご迷惑をおかけしておりますが、こちらの評価も整い次第、令和4年度の事業について評価をいただきたいと思っております。ご協力お願いいたします。こちらの評価をいただきつつ、皆様から意見をいただく中で、この目標設定はどうなのでしょうとちょうどいしていたところでした。そういったところで、目標設定が適切か見直しも行いたいと考えています。今のところ、事務局のほうでこういった目標設定でいかがでしょうかと事務局素案を示し、それから図書館協議委員の皆様にご意見をいただく、という手法を考えています。そして令和5年度中にビジョンの実施計画の後期計画を策定し、令和6年度から後期計画を施行したいという考えでいますので、ご協力お願いいたします。進め方としては以上です。具体的な細かい内容につきましては来年度以降と考えていますが、もしこの場でご意見があればお伺いしたいと思います。具体的な項目については、来年度改めてお伺いしたいと思いますし、もし進め方で今のところビジョンに関しては事務局で素案を作り、それについて意見をいただくような形式を考えていますが、進め方についても意見があればお伺いしたいのですがいかがでしょうか。</p>
関根委員	<p>例えば、子どもの読書活動推進計画、ビジョンの計画について、大人の意見ではないですか。実際に使う小学校高学年くらいになれば、自分の思いを伝えられると思います。中学生・高校生、実際に図書館に対してどういうイメージを持っているのか、図書館を使っている子どもたちにしてみればすぐ出ると思いますが、使わない子どもたちの意見もあると思いますが、未来を背負う子どもたちの声を反映できるとよいかと思います。デジタル社会ですので、実際の子どもたちの声はすごく大事になってくるという気がして、今回は無理だとしても、何かしら子どもたちに意見を聞く機会があってもよいかと思います。</p>
木村会長	<p>子ども読書活動推進計画を立てる時には、一切アンケートは取っていませんでしたか。</p>
伊藤係長	<p>はい。</p>
木村会長	<p>その中で全体計画を立てられたし目標も立てられた。ところが図書館ビジョンの時にはアンケートが一斉に集まった記憶がありますが、その対象は子どもも入っていましたか。アンケート自体には幅広い層から意見をもらっている。</p>
伊藤係長	<p>来館者を対象にしていたので、幅広い年代の方がいらっしゃいますし。</p>
木村会長	<p>こちらをベースにこちらを直していくほうが、より市民の、子どもたちの意見もここに入っていくかたちになりますね。</p>
関根委員	<p>直接入るわけではありませんが、子どもたちの声を参考にしてできることを入れていただきたいと思います。子どもは大人と考えることと全く違う発想があるので、その中にヒントがあるというか、これから育ってくる子どもたちが使いやすくなるような計画</p>

	に反映していただきたいと思います。
市橋課長	アンケートについては私も重要だと思います。子どもたちにどのようなアンケートをとるかというのが難しく、そこは検討する必要があると思います。子どもたちにわかりやすいアンケートになるかどうか、低学年・高学年・中学校いろいろいるので検討させていただきたいと思いますが、ただ、小中学生のアンケートの取り方として、今回部活動の地域移行の関係でタブレットを使ってアンケートを取らせていただいて、取り方の1つとしては小中学生については可能性がありそうですし、小学校低学年ができるかは学校教育課と話し合いをさせていただきたいと思います。関根委員の言われたことを含めて、事務局で精査していきたいと思います。
関根委員	今すぐというわけではないので、できるようだったらよいなということで述べさせていただきました。
木村会長	次から次へと国から県から下りてくるものを作っていくだけでも追われています。さらに新たに独自のアンケートをとるとするのは、限られた職員では、国から下りてきた基本計画を作るのにも精いっぱい状況です。ただ、今回さわた図書館の改築に関して非常に努力され、集計までされて。
伊藤係長	ボランティア団体の方が作ってくれて。
木村会長	勘違いしていました。確かに思いがこもっている結果が出ていましたね。そういう図書館であれば楽しいだろうなど。
伊藤係長	図書館ビジョンのことも子ども読書活動のことも両方に言えることですが、小学校や中学校での実際の子どもたちのご様子などについても、協議会にもそれぞれの先生方がいらっしゃいますので、教えていただければと思います。
黒川委員代理	図書室の利用状況であれば、本の大好きな子たちは利用しますし、遊ぶのが好きな子たちはあまり入ってないので、朝読書の時間や読書週間の時期に入っていたりします。杉坂先生からぐるぐる読書というものを教えていただいたので、それで各学年本から遠ざかっていた子が興味を持ったという話を聞きました。
土屋委員	中学校の子どもたちの様子ですが、さきほどお話がありましたが、二極化しているのが現状です。本を読む子は読みますし、読まない子は全く読まない。遠藤委員からもありましたが、タブレットで読んでいる子も散見されますし、紙の本を読むだけではなくなっている実感はあります。そう考えると、年々図書室に向かう生徒の数は減っているのかと、読書という視点からすると必ずしも減っているわけではありませんが、紙媒体ではないタブレット型のパソコンを通して読書をしているというような光景が学校内でも見られます。
木村会長	昔は漫画を読んでいて怒られましたが、今は漫画が一つの教養の場になっていたり、大学の教科書でさえも漫画みたいのでわかりやすく説明したり、それがタブレットになっているのと同じ現象だと思いますが、とにかく世の中どんどん変わっていますので、私たちも頭を切り替えながら柔軟性で計画を練ってと感じます。

土屋委員	余談ですが、図書室はまだ存在価値はありますが、学校にタブレットが配置されてからコンピュータ室の存在価値がなくなり、いらなくなりました。以前はコンピュータ室に行ってコンピュータの前に座ってコンピュータをする流れだったのが、全くコンピュータ室のコンピュータの稼働がゼロに近い状況です。
木村会長	機械で言えば OHP が出たら大きくて見やすい、そのうちビデオ関係が出てきたり、それからコンピュータ室でデータをみんなに一斉に配って、それがタブレットを配って、どんどん変わってきますね。
小松委員	私の経験から、読書の最初というのは家庭からではないかと。子どもが小さい時に、興味が出た時に本を買ってあげる。私の上の子の時には歴史が好きで、何十巻か与えると、親が忙しいと子どもは本を頼りにします。ところが下の子は本を振り回して本を読みませんでしたし、小学校で親子読書と言って、子どもが読んだ感想に対し、親が意見を書いてあげなければいけない場面がありました。なので、最初の環境かなと思います。今は親も共働きなどあり、本離れ、活字離れがあると思いますが、まずは家庭からかなと思います。私は昔体育系でしたので本は全くでしたが、退職してから時間があるので本を買ったり相川の図書館へ行って本を借りたりして、のめり込むとおもしろい。なので、そこをいかにいつ教えるかというのが大事かなと思います。
木村会長	最初に戻りますが、子ども若者課との連携というのもそのあたりとつながりがありますよね。小さい時にいかに親しませていくか、それで子ども若者課との接点は出てきます。
伊藤係長	貴重なご意見ありがとうございます。いただいた意見を踏まえながら、来年度の第1回図書館協議会でスケジュール的なところも示しながら、改めて事務局案を示させていただくかたちでよろしいでしょうか。
木村会長	今回作成ではなく、方向性を作っていくということですね。
市橋課長	基本的に佐渡市の計画を作る時には、図書館だけの話ではなく、市民全体を巻き込むのが計画のはずです。計画というのは、その目標を達成するために何をするかというところが大事ですが、それに対してだれが何をするかというところで、本来役割分担が出てきます。図書館協議会の役割や、親の役割や、いろいろな役割が計画にしっかり表わされて、みんなが理解していくのが計画なのかなという思いで、図書館計画を見ると本と図書館のことしか謳われておらず、佐渡市全体で子どもたちをどう育てていくか、本をどう使っていくか、いろいろな部分が必要なかなと小松委員の話聞いて思っています。このあと皆様からいろいろな意見が出てくると思いますが、今の状況だけでとらわれずに、いろいろな新しい考え方が出てくるべきであろうと思いますので、私ももうすぐ 60 歳になりますが、20 代の意見を聞いたり、30 代、または高校生の意見を聞いたりする必要があるのかなと思いましたので、内部でどうかたちがよいか話し合っていきたいと思います。皆様も周りの人たちの情報を聞いてきていただき、この場で意見をいただけると幅広い意見がいただけると思いますの

	で、いろいろ教えていただきたいと思います。
木村会長	平成 29 年4月に佐渡市教育委員会として、教育委員会の基本計画ができていますよね。当然社会教育課もここに入っていますよね。これは基本計画ができていますよね。ところが、社会福祉課あたりのものは見たことがないので、多分あると思うので、そのへんの整合性を探していくかたちになって、教育委員会は学校教育と社会教育なので、図書館は社会教育なので、社会福祉課のほうの大きなビジョンがどういったものができているのか、その整合性が今後問われていくかと思います。それが、ゆくゆく今後できる佐和田の施設の柱になっていけばよいなと思います。
市橋課長	市長部局、教育長部局、十分理解しているつもりでありまして、一番上には総合計画ができている中で、それぞれ枝分かれして動いておりますので、今子ども若者課の話が出てきたのは、さわた図書館の関係で子ども若者課が出てきただけということで、その調整はしっかり図っていきたいと考えています。それと、教育委員会も市長部局も市民の充実というところは変わりませんので、そこはしっかり考えて調整していきたいと話をしているつもりなので、教育委員会のすること、市長部局のことはしっかり考えていきたいと思っています。
木村会長	途中から図書館ビジョンと子ども読書活動推進計画の第3次が重なったようなかたちで進めてしまいましたが、最後に「その他」がありますが、何かございますか。
村岡館長	議題のその他について、事務局は特にありません。先ほど情報提供で電子図書館につきましては、第3次子ども読書活動推進事業計画の中でもご報告させていただきましたが、電子図書館の勉強会を新潟県と県内の市町村でやっています。
木村会長	それではその他はよろしいでしょうか。
黒川委員代理	来年度、3月 30 日に開催するのを検討していただけたら。終わる時間をご教示いただけるとありがたいです。
木村会長	これは特殊な事情で、普通は2月にやりますが、今年は特別だということをお許してください。
	(3)その他
市橋課長	退任委員、異動職員の紹介
土屋委員	次回の予定がわかりましたらお願いします。
木村会長 小松委員	退任委員挨拶
	4 閉会
関根副会長	挨拶